



# 北海道の学力・体力の向上策

講義日：平成29年1月28日（土）

会 場：藤女子大学

日本教育公務員弘済会北海道支部 中 田 貢

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### ○調査実施の要因

- ・平成16年末に公表された国際学力調査（PISA2003、TIMSS2003）で、読解力が大幅に低下するとともに、これまで最上位にあった数学や理科の低下傾向が明らかになったこと
- ・PISA（生徒の学習到達度調査）  
OECD（経済協力開発機構）により、「科学的応用力」「数学的応用力」「読解力」の3分野で、高校1年生を対象に3年ごとに実施
- ・TIMSS（国際数学・理科教育動向調査）  
IEA（国際教育到達度評価学会）により、算数・数学、理科で小学4年生と中学2年生を対象に4年ごとに実施

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### ○ PISA2015

「科学的応用力」は4位から2位、「数学的応用力」は7位から5位と前回を上回ったが、「**読解力**」は4位から8位となり前回を下回った

### ○ TIMSS2015

小学4年生の算数は前回と同じ（5位）、理科は4位から3位に、中学2年生の数学は前回と同じ（5位）、理科は4位から2位となり、平均得点はすべての教科で上昇した

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## ○調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## ○調査の対象

- ・ 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校  
小学部の**第6学年**の児童
- ・ 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校、  
特別支援学校中学部の**第3学年**の生徒

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## ○調査の内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数・数学）
  - ・ 主として「知識」に関する問題  
[国語A、算数・数学A]
  - ・ 主として「活用」に関する問題  
[国語B、算数・数学B]
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・ 児童生徒に対する調査
  - ・ 学校に対する調査

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 平均正答率の推移

### (1) 小学校

		国 語		算 数	
		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)
H 28	北海道	71.0%	56.0%	75.3%	44.5%
	全国	72.9%	57.8%	77.6%	47.2%
H 27	北海道	68.1%	63.0%	72.3%	42.5%
	全国	70.0%	65.4%	75.2%	45.0%
H 26	北海道	71.8%	52.9%	75.8%	55.2%
	全国	72.9%	55.5%	78.1%	58.2%

北海道版結果報告書より

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 平均正答率の推移

### (2) 中学校

		国 語		数 学	
		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)
H 28	北海道	75.1%	65.0%	61.8%	43.3%
	全国	75.6%	66.5%	62.2%	44.1%
H 27	北海道	75.8%	65.7%	63.0%	39.7%
	全国	75.8%	65.8%	64.4%	41.6%
H 26	北海道	79.4%	49.9%	66.0%	59.4%
	全国	79.4%	51.0%	67.4%	59.8%

北海道版結果報告書より



# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 平均正答率の推移

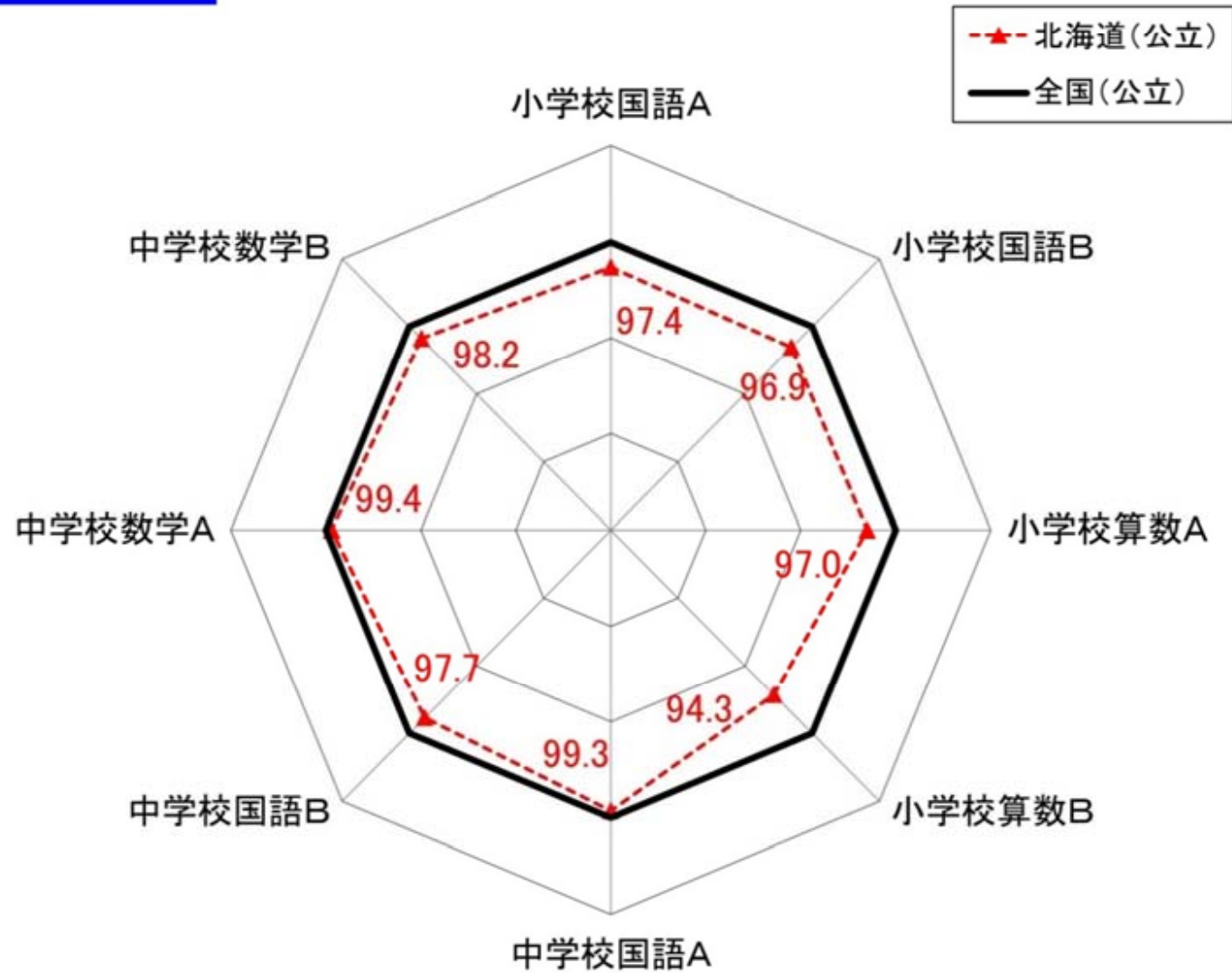
全国との差が、前回と比較して、

- ・ 小学校国語Aで同じ、
- ・ 小学校国語B、算数A、中学校数学A、数学Bの4教科で縮まり、
- ・ 小学校算数B、中学校国語A、国語Bの3教科で差が広がった

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## (1) 小・中学校全教科

(北海道版結果報告書)



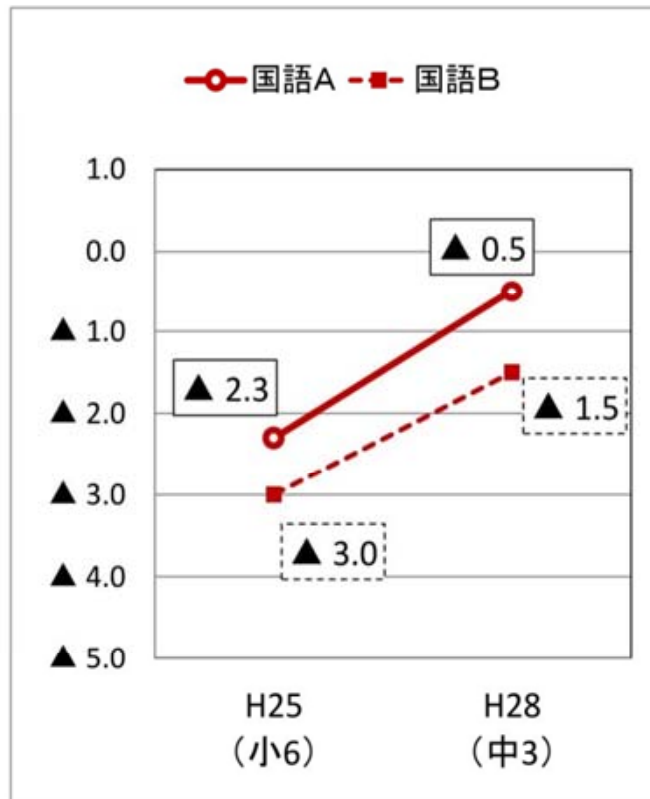
# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

平成28年度の中学校第3学年が、平成25年度に小学校第6学年で調査を実施した結果と比較すると、全国との差がすべての教科で縮まっている。

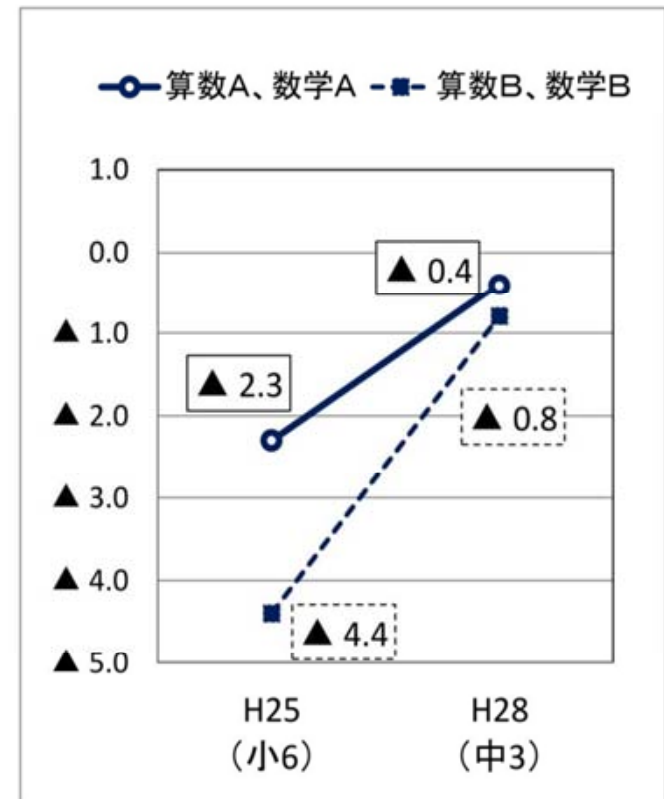
## (3) H25(小学校)とH28(中学校)の比較(全国の平均正答率との差の推移)

(北海道版結果報告書)

### 国語



### 算数・数学



# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 質問紙調査

### 児童生徒調査（小中学校とも）

- ・ 国語の勉強が好き
- ・ 家で学校の授業の復習をしている
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしている

全国を  
上回る

- ・ 1時間以上勉強している —— 全国を下回る

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 質問紙調査

### 学校調査（小中学校とも）

- ・ 家庭学習の課題の与え方について、  
教職員で共通理解を図った
- ・ 保護者に対して児童生徒の家庭学習  
を促すような働きかけを行った
- ・ 家庭学習の課題をよく与えた — 全国を下回る

全国を  
上回る

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 【市町村の規模別の平均正答率】

- ・ 「大都市・中核市」は、小学校のすべての教科で全国を下回っており、中学校のすべての教科で全国を上回っている
- ・ 「その他の市」は、小・中学校のすべての教科で全国を下回っている
- ・ 「町村」は、小・中学校のすべての教科で全国を下回っている

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### 【教育効果の高い学校に共通している取組】

- 家庭学習の指導
- 管理職のリーダーシップと同僚性、実践的な教員研修
- 小中一貫、連携教育
- 言語に関する授業規律や学習規律の徹底
- 学力調査の活用
- 基礎・基本の定着と少人数指導、少人数学級の効果
- 放課後や長期休業中の補習

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### 【教育効果の高い学校に共通している取組】

#### ○ 家庭学習の指導

宿題＋自主学習、必ず読み、手を入れ、  
子どもに返す

#### ○ 管理職のリーダーシップと同僚性、実践的な教員研修

互いに授業を見せ合う、学校内、学校外  
に授業を見に行く



## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### 【教育効果の高い学校に共通している取組】

- 小中一貫、連携教育  
教育課程や学習習慣などの面で、小中が連携し、  
系統性のある指導を行う
- 言語に関する授業規律や学習規律の徹底  
書くこと、話すこと、聞くことを大切にする
- 学力調査の活用  
学校の課題を明確にする

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 【教育効果の高い学校に共通している取組】

- 基礎・基本の定着と少人数指導、少人数学級の効果
  - T・Tや少人数指導に全校体制で取り組む
- 放課後や長期休業中の補習
  - 地域人材を積極的に活用する

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### 【学力向上に向けた課題】

#### ○授業改善・教員の指導力向上

- ・ 漢字や四則計算など基礎的・基本的な内容について、当該学年の指導に加えて確実な定着を図るための取組が必要
- ・ 「主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善の取組状況」など、学校が指導を行ったと考えていても、そのように受け取っていない児童生徒が一定割合存在する状況が見られる項目がある
- ・ 記述式の問題の正答率が低く、無解答率が高い傾向にある

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査

## 【学力向上に向けた課題】

### ○学校の組織的な取組

- ・教職員の同僚性を高め、組織的な取組がより徹底するよう管理職がリーダーシップを一層発揮する必要がある
- ・近隣等の小（中）学校と教育目標を共有するなどの小中連携の取組が全国と比べて十分進んでいない状況にある

### ○生活習慣や学習習慣の確立・子どもの学びの支援

- ・テレビ等の視聴時間や携帯電話の使用時間が長く、家庭学習の時間が短い状況が調査開始以降、継続している
- ・家庭での学習方法を具体例を示しながら「よく教えた」学校の割合が、継続的に成果を上げている他県よりも少ない状況にある

### ○地域と一体となった取組

- ・地域の教育力を活用して子どもの学びを支える体制づくりを一層進める必要がある

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査

### 【学校における今後の改善の方向性】

- ◇ 管理職が明確なビジョンを示し、教職員の共通理解を図る
- ◇ 子ども一人ひとりに質の高い教育を提供するよう、学校全体で組織的に取り組む
- ◇ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るため、学習内容を繰り返し学んだり、日常の中で活用したりする取組を全校で進める
- ◇ 自分の考えをまとめたり相手に分かりやすく説明したりする活動をすべての教科等で充実させる
- ◇ 日常の授業改善につながる校内研修に取り組む
- ◇ 全国学力・学習状況調査等を活用した検証改善サイクルの確立に取り組む
- ◇ 積極的な情報発信を通して、保護者や地域の方の学校への理解を深め、協働して教育活動に取り組む

# 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## ○調査の対象

- ・ 小学校、特別支援学校小学部、義務教育学校  
前期課程**第5学年**の児童
- ・ 中学校、中等教育学校、特別支援学校中学部、  
義務教育学校後期課程**第2学年**の生徒

# 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## ○調査の種目

- ①握力
- ②上体起こし
- ③長座体前屈
- ④反復横とび
- ⑤20mシャトルラン
- ⑥50m走
- ⑦立ち幅とび
- ⑧ボール投げ

(小5はソフトボール、中2はハンドボール)

# 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## 実技に関する調査（体力合計点）

### （1）小学校

		男子	女子
H 28	北海道	53.01	54.04
	全国	53.92	55.54
H 27	北海道	52.67	53.56
	全国	53.80	55.18

北海道における調査結果より



# 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

## 実技に関する調査（体力合計点）

### （2）中学校

		男子	女子
H 28	北海道	40.49	45.72
	全国	42.13	49.56
H 27	北海道	40.10	44.83
	全国	41.89	49.08

北海道における調査結果より

## 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### ○調査結果の分析と考察

- ・ 小中・男女いずれも全国平均を下回っているが、体力合計点は上昇し全国との差は縮まっている
- ・ 小5男女の握力とボール投げ、中2男子の握力は全国平均を上回った
  
- ・ 休み時間に体力づくりにつながる外遊びやマラソンをするなどの取り組みが成果をあげた

## 平成28年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

### ○質問紙調査結果の分析と考察

- ・ 平日に1日3時間以上、テレビを見たり、ゲームをしたりする割合が小中いずれも約4割で、全国平均より高い
- ・ 部活動やスポーツクラブに加入している児童生徒の割合は、小中いずれも全国平均を10ポイント前後下回った
- ・ 生活習慣の改善が課題であることから、学校や家庭、地域が一体となった体力向上に向けた取り組みが必要